

「しかし」と「そこで」の 「遠隔共起」から見た 社説の「開始部」の文脈展開

—論文・レポートと比較して

王金博

◆要旨

本 研究は、中級の読解教育に利用されることの多い社説が、同じ論説文である論文・レポート等の作文能力の育成につながると考え、社説の「開始部」には、どのような文脈展開が使用されるのかについて、「しかし」と「そこで」の「遠隔共起」に基づいて分析した。その結果、社説の「開始部」には、論文やレポートと類似した文脈展開が用いられていることがわかった。このことから、日本語教育では、社説を利用した中級の読解教育で、社説の「開始部」に、言語形式の伴った文脈展開を学習者に意識させることで、読解能力の向上と同時に、上級のアカデミック・ライティング能力をも向上させることができると考えられる。

◆キーワード

しかし、そこで、遠隔共起、社説、開始部、
文脈展開

◆ABSTRACT

In this paper I use the notion of “Distant Collocation” between “shikashi” and “sokode” to analyze the contextual expansion patterns of the beginning paragraphs of editorials, and compare the results with papers and reports. This analysis confirmed that the contextual expansion patterns within the beginning paragraphs of editorials are similar to the patterns which used within papers and reports. Moreover, according to the research, I believe that using editorials as the material and explaining the contextual expansion patterns within it on intermediate reading lessons not only can enhance the reading skills of Japanese Language learners, but also improve them in the advanced Academic writing.

◆KEY WORDS

shikashi, sokode, distant collocation, contextual expansion

An Analysis of Contextual Expansion
within the Beginning Paragraphs of Editorials
by Using the Notion of “Distant Collocation” of
“Shikashi” and “Sokode”

Compare with papers and reports

WANG JINBO

1 研究目的

留学生の日本語教育では、論説文を書くことが求められている。論説文とは、「話題として取り上げることがらに対する筆者の考えを論理的に接続して、その正当性、妥当性を論証し、読者に同意を求める文章」のことであり、「意見文」「社説」「コラム」「評論」「論文」などに分けられる(船所2011:88)。

留学生に対するアカデミック・ライティングの一環として、論文・レポート作成が重視されている。日本語教育における作文教育を目的とした村岡他(2004)は、理科系論文の緒言、いわゆる序論にあたる部分にどのような論理展開があるのかについて、緒言が3段落で構成されている農学・工学系論文90篇を対象として、それぞれの段落にどのような接続表現が使われやすいかを調査した。その結果、緒言の第1、2段落に逆接型の「しかし」、第3段落に順接型の「そこで」が使用されやすいという結果が得られたという。村岡他(2004)は「しかし」と「そこで」を関連づけて考察していないが、この2つの接続表現によって、背景説明の後で「しかし」を用いて問題提起をして、「そこで」を用いて、論文概要を紹介する、という文脈展開が理科系論文の緒言に用いられていることが推察できる。一方、大学・大学院の留学生向けの作文教科書でも、上述のような「しかし」と「そこで」による文脈展開が使用される例文が観察され、それをレポートの序論の「型」として学習者に提示している(アカデミック・ジャパニーズ研究会編著2001:67-68)。また、日本人大学生向けのレポート作成の教科書でも、「しかし」と「そこで」による文脈展開が序論を書くためのフォーマットとして提示されている(井下2003:73)。

以上のことから、「しかし」と「そこで」による文脈展開は、論文・レポートの序論に使用され、日本語母語話者の研究者も、日本語教師も無意識に使用していると見られる。一方、同じ論説文である社説、論文、レポートには、文脈展開上の類似性があるのではないかと予測されるが、社説は日本語教育の教材として、中級の読解教育から導入されるにもかかわらず、その文脈展開はあまり解明されていない。

そこで、本研究は、社説の「開始部」に注目する。上述のように、文脈上、

意味的関連性を持つ「しかし」と「そこで」を「遠隔共起」として、2つの接続表現の「遠隔共起」が社説の「開始部」に使用されているのか、どのような文脈展開がなされ、どのような機能を持つのかを調査して分析する。

2 分析方法

2.1 「しかし」と「そこで」の「遠隔共起」

接続表現の「遠隔共起」は、いわゆる「コロケーション」とは異なり、文章の文脈において意味的関連性のある共起現象である。文章中の複数の接続表現が、形態上、一文以上離れて使用され、文脈上、直接意味的関連性を持ち、構造上、意味のまとまりをなす統括関係が認められるものである。以下例を示す。

- (1) 【①1964年の東京五輪前後に都内に造られた橋が、次々と架け替え時期を迎えている。②しかし、造り替えるには巨額な費用が必要なばかりか、作業員の確保も難しい。③そこで東京都は今秋から、橋の耐用年数を100年以上延ばす「長寿化工事」に取り組む。】

(朝日新聞2008年8月23日夕刊)

(【 】は「しかし」と「そこで」の「遠隔共起」の及ぶ範囲を示す)

「しかし」と「そこで」の「遠隔共起」とは、(1)のように、「しかし」によって結びつけられる内容(文①と文②)を受け、「そこで」が後続文(文③)へと展開していくものである。その構造上の統括関係は図1に示すとおりである。

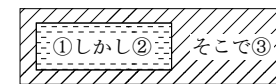


図1 (1)における「しかし」と「そこで」の構造上の統括関係

2.2 調査方法

本研究では、『朝日新聞』の「聞蔵Ⅱビジュアル・フォーライブラリー」を利用し、1984年1月1日～2011年12月31日の期間に限定して、(1)に示すような「しかし」と「そこで」の「遠隔共起」が使用される社説を61例抽出して分析対象とした¹。「しかし」と「そこで」の「遠隔共起」が社説の「開始部」に使用される場合、どのような機能を持つのか、どのような文脈展開があるのかを調査して分析する。

3 分析結果

「しかし」と「そこで」の「遠隔共起」が使用される61例中、表1に示したように、「開始部」に10例、「展開部」に46例、「終了部」に5例あり、使用位置によって、「しかし」と「そこで」の「遠隔共起」の機能にも使用傾向がある。本研究では、「開始部」に使用される10例に焦点を当てて説明する。

表1 社説における「しかし」と「そこで」の「遠隔共起」の使用位置と機能

「遠隔共起」の機能	機能の定義	開始部	展開部	終了部	合計
話題提示	文章の話題を提示する機能	5	2	-	7
詳述・例示	背景・事実などを詳しく説明する機能	3	27	1	31
問題提起	背景・事実などの問題点を指摘する機能	-	2	-	2
提言	ある問題点に対して、どうすれば良いかを提案する機能	-	13	4	17
見解表明	ある事柄に対して、どのように考えているか述べる機能	2	2	-	4
合計		10	46	5	61

「開始部」に使用される10例中、「しかし」と「そこで」の「遠隔共起」が「話題提示」機能を持ち、文章の話題を提示する例は5例あり、うち4例は、2つの接続表現の「遠隔共起」による文脈展開が「開始部」全体を構成している。その他、「しかし」と「そこで」の「遠隔共起」が「詳述・例示」機能を持ち、提示

された話題を詳しく説明するのに用いられる例は3例ある。「見解表明」機能を持ち、提示された話題について筆者の見解を表すのに使用される例は2例ある。

まず、「しかし」と「そこで」の「遠隔共起」が「話題提示」機能を持つ場合、2つの接続表現の「遠隔共起」によって話題を提示する(2)と、「遠隔共起」による文脈展開が話題を提示するための前置きとして用いられる(3)が見られる。

- (2) 【①6月の第3日曜日は「父の日」である。②この朝を「お父さん、ごくろうさま」と、にぎやかに迎えた家庭も多いだろう。③**しかし**、世の中には、親ひとりの家もあれば、両親のいない家もある。④**そこで**、きょうは父子家庭の問題について考えてみたい。】

(朝日新聞1990年06月17日朝刊)

- (3) 【①一人ひとりの生命や生活を守る責務は本来、国家にある。②**しかし**、紛争や経済危機に見舞われた国々の政府は国民を守る力を失う。③**そこで**、外からの支援を通じて暴力や人権弾圧などの「恐怖」を絶ち、貧困に由来する食料や水、教育、医療の「欠乏」をなくしていく。④こうして人間の生命、生活、人権を守っていく理念は「人間の安全保障」と呼ばれている。】

(朝日新聞2007年5月3日朝刊)

(2)は「父子家庭にも目を向けよう」という社説の「開始部」である。「しかし」の前件では、「父の日の朝、にぎやかに迎えた家庭が多いだろう」という推測を述べ、後件では、「世の中親一人しかいない家庭や親のいない家庭がある」ことを述べている。その後、「そこで」を用いて文章の話題である「父子家庭」を提示している。「しかし」と「そこで」の「遠隔共起」によって、「背景説明」しかし「問題提起」そこで「文章の話題の紹介」という文脈展開が形成されている。これは論文やレポートの序論と同様の展開パターンになっている。

(3)は「人間の安全保障」という社説の「開始部」の一部である。「しかし」と「そこで」の「遠隔共起」の範囲は文①～③であり、文章の話題である「人間の安全保障」はどのようなものかを例示している。その後、文④で「こうして」を用いて話題「人間の安全保障」を提示している。つまり、「しかし」と「そこで」の「遠隔共起」が文章の話題を導きだすための前置きになっている。

(2) (3) のような「話題提示」としての用法以外に、提示された話題を解説する (4) と、提示された話題について筆者の見解を述べる (5) もある。

(4) ①大震災の復興財源のひとつとして、日本郵政グループの株式売却が政府・与党内で取り沙汰されている。

②～⑤略

【⑥日本郵政をめぐる、民主党政権は株式売却の凍結法を成立させる一方、郵政改革を抜本的に見直す法案を昨年の通常国会に出した。⑦その成立をみて資産売却を解禁する段取りを描く。

⑧しかし、見直し法案には、小泉政権下で民営化を断行した自民党など野党の反対が根強い。⑨そこで、復興のための増税圧縮に絡めて成立を急ごうという思惑が垣間見える。】

(5) ①東京都議会の自民党議員五十人が、新しい党支部を一斉に設立していたことが先ごろ明らかになった。②所在地は自宅や事務所、代表は本人である。

③政党が、本当に政治活動の拠点となる支部を増やすのであれば、何ら問題はない。④都議たちがつくったのは、そうした支部とは似て非なるものだ。

【⑤一月から、政治家個人に対する企業・団体献金は禁止された。⑥しかし、政党に対しては禁止措置が見送られ、相変わらず無制限に献金を受けることができる。

⑦そこで政治家一人ひとりが政党支部を持ち、ここに企業献金を導こうというのが、その狙いである。⑧禁止されたはずの政治家個人への献金を受け取れるようにするための抜け道にはかならない。】

(朝日新聞2000年2月28日朝刊)

(4) は「郵政株売却まずは投資に値せねば」という社説の「開始部」であり、「しかし」と「そこで」の「遠隔共起」は【 】に示した文⑥～⑨である。文①で「日本郵政株売却」という話題について、「政府・与党内で取り沙汰されている」ことを述べている。その後、文⑥～⑨を用いて、「政府・与党内」で

どのような「取り沙汰」があるのかを説明している。この場合、「しかし」と「そこで」の「遠隔共起」によって、「事実説明」しかし「問題点」そこで「解決策」という文脈展開が見られた。

(5) は、「そこら中に政党支部が 企業献金」という社説の「開始部」であり、「しかし」と「そこで」の「遠隔共起」は【 】に示した文⑤～⑧である。文①②で「新しい党支部が設立された」ことを述べ、文③④では従来の「党支部」とは「似て非なるものだ」という見解を述べている。その後、文⑤～⑧では、これらの新しい党支部はどのようなものかについて、筆者の見解を述べている。⑤では「政治家個人に対する企業・団体献金は禁止された」事実を述べ、「しかし」を挟んで、「政党なら献金を受けることができる」ことを述べ、「そこで」の後で、「新しい党支部」は「政治家個人への献金を受け取れるようにするための抜け道にはかならない」という筆者の見解を述べている。「しかし」と「そこで」の「遠隔共起」による文脈展開が、提示された話題を評価するために用いられている。

4 まとめ

本研究は、社説の「開始部」に注目し、「しかし」と「そこで」の「遠隔共起」に基づいて、社説がどのような文脈展開によって書き出されるのかを分析した。その結果、社説の「開始部」では、「しかし」と「そこで」の「遠隔共起」が「話題提示」、「詳述・例示」、「見解表明」として使用されている。社説の「開始部」における文脈展開には、論文やレポートの序論と共通するものが見られ、その文脈展開に「しかし」、「そこで」など形態的指標が伴っていることがわかった。

社説を利用した中級の読解教育では、社説の「開始部」の文脈展開やそれを捉える形態的指標を学習者に教えることで、社説の話題や筆者の見解をより迅速に捉えることができる。また、社説の「開始部」には論文やレポートの序論と共通する文脈展開が使用されることを学習者に意識させることで、上級の論文・レポート作成に応用することができ、学習者の作文能力の向上にも繋がるだろう。

今後の課題として、「しかし」と「そこで」の「遠隔共起」が社説の「展開部」

と「終了部」に位置する例を分析し、社説の「展開部」と「終了部」における文脈展開を解明する必要がある。

〈筑波大学大学院生〉

注

[注1] ……本研究は「しかし」と「そこで」の「遠隔共起」を分析したが、このような接続表現の「遠隔共起」現象は、「しかし」と「そこで」に特有のものではない。それ以外の逆接型と順接型の接続表現の組み合わせについて、形態上の見かけの共起としては、「だが」と「そこで」は233例、「しかし」と「したがって」は139例が見られた。しかし、「遠隔共起」は形態上の共起だけで認定できる現象ではなく、構造上の認定も必要である。

参考文献

- アカデミック・ジャパニーズ研究会（編著）（2001）『大学・大学院留学生の日本語2 作文編』アルク
- 井下千以子（2003）『思考を鍛えるレポート・論文作成法』慶応義塾大学出版会
- 船所武志（2011）「論説文」田中明・佐久間まゆみ・高崎みどり・十重田裕一・半沢幹一・宗像和重（編）『日本語の文章・文体・表現事典』p.88. 朝倉書店
- 村岡貴子・米田由喜代・大谷晋也・後藤一章・深尾百合子・因京子（2004）「農学・工学系日本語論文の「緒言」における接続表現と論理展開」『専門日本語教育研究』6, pp.41-48. 専門日本語教育学会